

門をしっかり学んでいること。大学院でそれを深めているとなおいいこと。社会での実務経験も重要視されるということだった。関西学院だけでなく他大学の学生も多く参加しているようだった。その中に千里国際の高校生達も混ざっていたのだ。彼らがすべてを理解できたとは思わないが、大いに刺激を受け、今の勉強が単に大学受験のためではなくその先へと続いていることを感じてくれたはずだ。その証拠には昨年参加した生徒達の何人かが進路決定の参考としていたし、進路を決めた後も更に深めたくて2年続けて来た者もいた。

実はこの日の午前中には今年から始まった高校生向けの新しい企画があった。関西学院関連高校のためのワークショップだ。午後のパネルディスカッションに参加されていた特定非営利活動法人ジーエルエム・インスティテュート (GLMi) の方が「マナミヤ村 プロジェクト企画会議」と題して、高校生自らが若き開発ワーカーとなり現地に赴くシミュレーションを体験させてくださったのだ。国連のミレニアム開発目標に向けて、各自が具体的にどのような行動を起こせるかについて、貧困に絡む問題を分析した。実際に開発支援の場で使用されている手法を用いたプロジェクトの計画立案をグループごとにまとめて発表するということまで掘り下げた。関西学院大学総合政策学部の准教授や大学生の指導も得て、初めて会う者達もだんだんと議論に熱が帯びていった。

これにもその前に行われたキャンプや講演が前段階として繋がっている。夏休み中に第一回の KG (関西学院) オールスターキャンプというものが開かれていたのだ。帝塚山学院、清教学園、三田学園、啓明学院、関西学院高等部と本校、合わせて6校の関西学院提携校・付属校から62名の高校生が関西学院の施設である千川キャンプ場に集まって2泊3日をともに過ごした。テーマは「国際」で6月から事前のミーティングを重ねて高校生主体で企画を進めていった。世界の料理クッキング、肝試し、キャンプファイアーといった楽しさいっぱいのものから、国連や国際機関での経験豊富な教授達の講演、ディスカッション、発表まで中身の濃いものだった。講演



者は高校生だからと手を抜くこともないし、高校生もこれまでの経験を活かして喰らいついていった。また、高校生同士の交流からも多くを学んで世界が広がったようだ。

その後にもその講師の方に本校まで来ていただいてお話を聞いたり、法学部の教授に教員研修で講演をしてもらったりする機会もあった。関西学院との合併以来、このような多くの機会を得てより広い世界を見ることができるようになった。他の多くの学部や理系の分野でも実際に研究室でどのような専門の研究が進められているのかまで千里国際の高校生たちに紹介していきたい。その時に卒業生達は率先して案内役を務めてくれるだろう。

このように私達は関西学院を通して大学やその先に開ける社会を生徒達に知らせる可能性がぐっと広がった。内側から身近なモデルとして具体的に教育・研究機関を知った時、生徒達の将来は更に明確になっていくだろう。現在30%程の生徒が関西学院大学に進学している。この割合は関西学院大学の素晴らしい実績を詳しく知ることによって増加していくだろう。しかし、以上のことによって、同時に多彩な進路への希望も深まり、そのサポートにも千里国際は全力をあげていくことに間違いはない。

眞砂 和典 (まさご かずのり)

関西学院 千里国際中等部・高等部 校長

私自身は、本校の生徒とは対照的に、英語が苦手という理由で理系を志望した不謹慎な高校生でした。そのせいで今でも英語に苦しめられています。また、母校がこの数年でなくなってしまうという、教育界の荒波をまともにうけた者でもあります。出身の東京都立九段高校は千代田区立の中等教育学校に、また東京都立大学は移転、統合してしまいました。しかし、母校がないというのもまた、すっきりした気分でもあります。学歴にしがみついて生きていくのはいやだし、貴重な学生時代は私の中に厳然として生き続けているからです。



~~~~~  
**関西学院 千里国際中等部・高等部**  
 〒652-0032 大阪府茨貫面市小野原西 4-4-16  
 TEL : 072-727-5070 FAX : 072-727-5055  
 HP : www.senri.ed.jp E-mail : admissions@senri.ed.jp



昨年4月の関西学院と合併した千里国際の、今後の教育の方向についての眞砂校長による報告です。

関学の良さを生かしながら、千里国際の建学の精神「多様性」を大切にしていこうという眞砂先生の姿勢に、個人的に安心しました。

千里国際の更なる発展を期待します。皆さんがんばってください！